

【主催者挨拶】【各党挨拶】

◆菱山南帆子さん(市民連合)

「高市首相の戦争と独裁の危機に私たちを放置したことは絶対に許せません。しかし、ここで私たちがくじけたら、本当に戦争と独裁の波に一気に引き込まれてしまいます。この状況の打開は市民運動しかできません。この焼け野原は、市民運動が引き取るしかありません。悔しさを力に変え、前代未聞のこの状況から、私たち市民の大反撃を開始しようではありませんか。韓国での非常戒言令の時を思い出してください。あの時は少数与党の壱発逆転として、元ユン大統領が打ち出した施策でした。今回の年明けすぐの真冬の選挙も追い詰められた。高市自民党政権による一発逆転を狙った解散劇でした。ユン元大統領はの戒言令は、市民と野党の反撃で失敗しましたが、高市解散劇は成功させてしまいました。しかし、今このように多くの市民が選挙後の危機感から立ち上がり始めています。去年の2月8日、私はソウルで行われたユン大統領団効デモに実際に参加し、壇上でスピーチをしました。その時に見た韓国のデモの光景は本当に驚きました。街中にペンライトと手作りの旗がひしひしと抜き合い、そして多くの女性たちがデモや運営に関わって参加しているんです。私たちもくじけず頑張らしましょう！」。

【連帯挨拶】

◆福島瑞穂社民党党首

「働いても低賃金、物価高で生活苦、非正規雇用悲痛な叫びが消えません。皆さんどうですか！そして安心して働き続けることができる期間の定めがあったり、不安定だったり、待遇が悪かったり、正社員でも過労死が迫られる。働き続けることができる。子供を産み育てることを望めば、望まないことも望むことも可能となる。そして身近な自分が育った地域の住み慣れた家で、例えば、次の住む家として迎えることができる。そんな社会を全力で作りたいんです。でも介護保険は崖ぶち、ヘルパーさんは来てくれない医療の削減、そして子供を産んで育てることが困難な社会！高市政権は裁量労働制をさらに労働時間の規制緩和を言っています。こうでない社会を一緒に作っていいわけではありませんか皆さん戦争は誰が考えても最大の人権侵害であり、最大の環境破壊です。私はいわゆる従軍慰安婦の人をはじめとした戦後保障の裁判を弁護士の時代やっていました。どれだけどれだけ戦争が多くの人たちの人生を命を根こそぎ奪ってしまうのかどれだけ人生を変えてしまうのか、そのことを痛感をしていました。皆さん戦争こそ避けなければならない！戦争は絶対にやってはいけない。そんな政治を実現していいわけではありませんか」。

◆田村智子共産党委員長

「変えてほしいという方に女性の総理だから期待しているという方に、実は高市さんは選択的夫婦別姓も同性婚も反対なんです。また選択的夫婦別姓は何が何でもやらないので、全部の名前を通称で押し通してやらせるような方案を出してくるというので

すけれど、名前はアイデンティティですからね。まさに人権から考えた時に誰が誰を好きになってどういう家族を作るのか、それは私の権利であって国に押し付けられることではないというこういう若い皆さんの声に答えることが何かを変えてほしいというその思いに応える道ではないのかと思えてならないんです。そして、対話する中では、やっぱり中国にはっきりものを言う高市さんが信頼できるという声がありました。私たち日本共産党も、そしてここにいるみんなも中国がいろんな危機を煽るような、あるいは尖閣諸島で危険なことをねやること、これにみんな反対しています。そういう問題を解決しなければいけないと思っています。でもだからといって政党や政治家や、まして総理大臣が自ら中国との危機を煽る。あるいは台湾発言のように、日本の領土でも領海でもない台湾海峡で何かことが起きたら、自衛隊が出張って行って。アメリカが戦っている時に、自衛隊が逃げ帰ったら、アメリカとの信頼関係が崩れる。こんな発言しちゃうたら、それはこっちから中国と戦争やれますよと言ってるに等しいこと。これはまさに日本が戦争する国になってしまう。その道を示すようなことではないのか。これを望む人はいないと思います。中国にはっきり物を言うけれど、同時に互いに脅威とならない。互いに信頼関係を作る。☑どうしたら戦争を起こさない国になるのか？ どうしたら東アジアが戦争の心配のない地域になるのか、そのためにはやっぱり外交をやるしかないんじゃないかというのが、最も日本を守る確かな道だと思うんです。そのことを求めているが、私たちの国の憲法ではないでしょうか。今、自民党は衆議院で3分の2以上の議席を持ったからと、たとえ国論を2分していても、憲法改正を行っていく発議ができるようにしていくと、こう言ってはばかりません。高市首相もそのことに前のめりになっています。しかし、皆さん憲法は国論2分の状態を変えるようなことは絶対にできない。国民の皆さんの中に憲法をどうしても変えなきゃいけないんだ。こういう声が起こって、その声を受けた国会議員がたくさんになって、そういう時に初めて憲法改正の議論になっていくんじゃないでしょうか。今、高市政権支持するという人の中でも、憲法を変えることを期待するという方は、ごくごくわずかです。皆さん力を合わせて憲法を守りましょう。

◆岡崎宏美新社会党委員長

「人間の働き方、その働き方によって生きるという道まで左右されるようなことは、許せません。高市さんは日本をもっと豊かにするという。もっと豊かにするのなら、まず手をつけるべきは働く人はみんな当たり前前に正規の労働者にすることです。みんな当たり前前に生活できる賃金を非正規だ正規だ言わずに全部揃えろということでしょう。年収の壁とって、選挙で伸びた党があるだけ、あれほど私たち女性にとって働いてきた女性にとって腹が立つバカにしている方策はないんです。なぜかならば一つの家族を単位にして、養われるものという感覚の中でものを考えているから、あんな年収の壁が出てくるんだよ。みんな一人前の働く者として扱えば、そんなことはできないです。私たちは憲法を守り生かすということは、まずは人々はみんな平等で働く人たち

はっきりと人間として生きていけるように、そういう法律を作れということなのです。私の親たちは言いました。なぜ戦争に突っ走っていくしかなかったのか、それほどみんな貧しかった。ものを言うことは許されていなかったと言いましただから今、私たちが手にしている憲法は学ぶ機会をきちんと保証している。私たちは当たり前におかしいと思うこと言っていていいと保障している。その結果として戦争させないということは、一人一人がきちんと人間として豊かに生きる。ものを言う世界だった。社会なんだということは全部書いてあるだから。高市さんは昨日の演説の終わりの方でどんな社会を作りたいか、その理想の形を描くのが憲法だと言った。あなた、もう一回ちゃんと読んでちょうだいと私は言いたいです。同じ関西にいる人間として。全部書いてある。それを私たちは憲法をきちんと生かすこと。憲法は上限じゃないんです。憲法より下がるような法律を作ってはいけないと書いてあるんです。だからちゃんとみんなで国会の方へ押しかけて行ってやるんだったら、これやってとそういうこと言って行きます。それが戦争させない人々に人間って、これだということを思わせる道です。だから皆さん頑張りましょう」。

◆石垣のりこ参院議員(立民党)「今回の選挙結果は、本当に危殆状況です。だからこそ、今日こうやって皆さんが多くお集まりいただいているんだと思います。確かに選挙の結果、皆さんの民意として今回の選挙の結果はあります。しかし、多数決はそれがすべて民主主義ではなく、それがすべて正しいことを意味しているものではないですよ。だからこそ、私たちはこの民主主義と同時にきちんと権力が暴走しないように立憲主義というのを大事にしている。立憲主義の基に、皆さんが集まってくれていると思っています。野党も今いろいろあります。ここにいるのは立憲主義を大事にしている野党だと私は確信をしています。立憲主義っていうと一体何なんだろうな硬そうだなと思われる方も多いかもしれないんですが、きちんと皆さんの命権利を守るために、権力は暴走しないで、憲法に則って政治をすることです。

私たちはもっともっと今お集まりの皆さん、そして今ここで演説をした皆さんのその思い制作いろんな方針に対して共感をされている皆さんは、人権が大事だと思っていちゃってと思います。そして多様性がとても活かされることが尊重されることが大事だと思っていちゃってと思います。さらに私たちの権利人権多様性、差別をしない社会、これが何のためにあるのか。誰もあつた誰も貧乏になりたいわけじゃないですよ。豊かになっていきたいわけですよ。むちゃくちゃ贅沢はしなくていいかもしれないけれども、普通に働いてきちんと給料があつて、ちょっとたまには旅行に行ける。そういう当たり前の暮らしを得たいわけですよ。それがなぜかこの30年もう足掛け40年ですよ。崩されてきたのはなぜなのか格差が広がってきたのはなぜなのか、一人一人の権利が生かされない差別が横行するようなまた弱い立場の人たちにその責任をなすりつけはいけない。

皆さん、多様性を大事にする尊重することも、人権を大事にすることも、これは経済が豊かになっていくみんなが安心して、それぞれ自分が自分らしく生きていくことによって、様々なアイデアが生まれて、それぞれがより消費をして経済を回して共に豊かになっていくための必要最低限の条件なんです。だからこそ、私たちはこの人権を守り多様性を守り、具体的に言えば、基本的に選択的夫婦別姓もそうだし、同性婚もそうだし、差別をしないということを主張しているんです。皆さん頑張りましょう」。

◆高良さちか参議院議員(沖縄の風)メッセージ(司会者だいで)

「第二次高市政権がスタートしました。高市総理の所信表明には、国民の侵入を得た自信が現れ憲法改正や皇室天板の改正など、総選挙の総選挙の堂々と盛り込まれました。台湾有事は存立危機事態になり得ると。述べたことによる対中関係の悪化への認識も示されず、危うさが目立ちます。アメリカの戦略の中で、アメリカのために集団的自衛権を行使できる体制を作りながら、リアルな戦争を全く想像できていない政治恐ろしい時代の到来です。日本の安全保障の中核を担わされている沖縄に関して言えば、すでにアメリカが辺野古新基地ができたとしても、普天間飛行場を交換しない場合があり得ることに言及しているのもかかわらず。辺野古一辺と日本政府の思考停止は残念でなりません。お集まりの皆さん、高市さんを信じて、自民党に投票してしまった方も含めて、どうぞこんなことまで委任していない争点でなかったことまで強行するなという声を上げましょう。

◆佐々木ひろし共同代表

「登壇は全員女性なんですね。あの新しい可能性を感じます。市民連合というのは、2015年に安保強行採決、安保強行採決ですね。あの時に誕生しました。10年ちょっと経って、同じような状況が起きてるということです。その時にもいても経ってもいられない人たちが集まって、市民と野党の共闘いうことを始めたわけです。この間10年間、一生懸命ですね。各地方で石垣さんもお話しされましたけども、宮城でも私の新潟でも長野でも山形でもいろんなところで市民連合と市民の野党共同頑張ってきました。今ではちょっと信じられないんですけども、2024年と2025年の参院選衆院選で野党自民党の与党は少数になったんですよ。一回の自民党勝利に後退りできません。皆さんめげずに頑張りましょう」。

◆およそ1時間にわたり野党党首の決意と訴え、石垣さんの立憲主義を無くせないと力を込めました。2/3の議席で一党支配の自民党に市民と野党の共闘で反撃の条件を作ろうと参加者の声が轟いた！！

